

## 武尊ブルーを満喫した上州武尊山

山行日：2019年2月3日（土）

コース：川場スキー場 8：00＝リフト上駅 8：25－剣ヶ峰 9：07/9：25－武尊山  
10：34/11：01－剣ヶ峰 12：11－リフト上駅 13：10＝川場スキー場  
13：10

当初、週末の天気は良くないとの予報だったが、それに反して当日は最高の晴天となった。

朝4時30分に車で新松戸を出発し、朝7時前に川場スキー場に到着。駐車場で身支度を整え、ロビーでくつろぎながらリフトの運転開始を待つ（日本百名山のためなのか、雪山装備の登山者がとても多いことに驚いた）。

まずはリフト2本（その距離2,684m）を乗り継いで、標高1870mのゲレンデトップまで一気に標高を稼ぐと、そこには雲ひとつない武尊ブルーと呼ぶに相応しい青空と、素晴らしい眺望が待っていた。

当初ラッセルも覚悟し、ワカンやピッケルも持参したが、すでに先行者によりトレースが作られており、全員12本爪アイゼンとストックで登り始める。

最初のピークである剣ヶ峰（標高2020m）までは急な斜面を登るが、一歩一歩踏みしめる新雪の感触が何とも心地よい。

剣ヶ峰の山頂手前で見覚えのある石の祠が顔を出していた。去年の10月にこの山を訪れたとき、ちょうどこの祠の前で食事したことを思い出し、懐かしさとともに夏山と冬山の違いを強く感じた。

剣ヶ峰から武尊山頂への登山道は岩場混じりの急な斜面を下るところから始まる。正直、かなりの急斜面で、すでに下りのための渋滞が発生していた。

ここから先は沖武尊に向けた見晴らしの良い稜線歩きとなるが、その途中ではアイスモンスターやシュカブラも見ることができた。

剣ヶ峰から一時間ほどで武尊山頂（2158.3m）に到着。山頂からの眺めを満喫したのち、風のない鞍部で昼食をとり、無事に下山することができた。

下山後は交通渋滞を避けるべく、早々に帰宅の路につくと午後4時半には松戸に戻ってくることができた。

早朝に家を出て、雪の百名山の頂に立ち、夕方には自宅で晩酌をしている。そんな素晴らしい山行を計画し、車の運転までしていただいたリーダー、またご一緒いただいた皆さん、本当にありがとうございました。

今後とも、よろしく願いいたします。

